

平成29年 第10回 定例教育委員会 会議録

招集日時	平成29年10月18日 午後6時30分						
開会日時	平成29年10月18日 午後6時30分						
閉会日時	平成29年10月18日 午後7時54分						
開催場所	ふじみ野市役所第二庁舎3階 B301会議室						
教育長	朝倉 孝						
委員出席席状況	席番	氏名	出席別	説明のため出席した者			
	1	富田信太郎	出	教育部長 土屋 浩	出	副参事兼社会教育課長 佐藤龍司	出
	2	塩野 好一	出	学校教育管理監 朝倉美由紀	出	主幹兼大井図書館長 宮井さゆり	出
	3	山城いづみ	出	副参事兼教育総務課長 皆川恒晴	欠	主幹兼大井中央公民館長 岩崎明央	出
	4	伊藤 英夫	出	学校教育課長 榎本 崇	出	主幹兼上福岡歴史民俗資料館長 橋本鶴人	出
				学校給食課長 小林 清	出	主幹兼おぞろ学校給食センター所長 岡田 彰	出
書記	教育総務課副課長 佐々木拓郎		傍聴人数		1人		
<b>会 議 概 要</b>							
議 事 等							
第24号議案「ふじみ野市社会教育委員会議規則を制定することについて」(可決)							
第25号議案「ふじみ野市社会教育委員の会議運営に関する規程を廃止することについて」(可決)							
第26号議案「ふじみ野市就学援助実施要綱の一部を改正することについて」(可決)							
報告事項「全国学力・学習状況調査及び県学力・学習状況調査の結果について」(承認)							
(18時30分)	○開会の宣告						
教育長	ただ今から、平成29年第10回定例教育委員会会議を開催いたします。						
	○会議録の承認						
教育長	まず始めに、前回定例会会議録の承認についてです。						
	事前に委員の皆様にお配りしておりますが、何か確認事項等はございますか。						
各委員	(確認事項なし)						

<p>教育長 各委員 教育長</p>	<p>特にないようですので、この内容で承認してよろしいでしょうか。 (異議なし) それでは、会議録につきましては、この内容で承認いたします。 後ほど、委員の皆様の御署名をお願いします。</p>
<p>教育長</p>	<p><b>○教育長からの報告</b> 次に、報告をさせていただきます。 <b>1 学校教育及び社会教育の近況について</b> 各小学校、他の学校も体育祭、運動会が無事に終わり、子供たちも通常の生活、2学期の後半の生活に向けてがんばっております。 公民館、図書館等は、文化祭も始まりまして、その準備や展示に向けてがんばっています。 <b>2 学校給食について</b> 給食の方では牛乳の件がありますので、学校給食課長からその経過報告をしていただきます。 この間に、大きな点で変化はございません。 以上、報告させていただきましたが、確認事項等はございますでしょうか。</p>
<p>各委員 教育長</p>	<p>(確認事項なし) よろしいでしょうか。</p>
<p>教育長</p>	<p><b>○本日の議事</b> それでは議事に入ります。本会議に提案させていただいた議事の件数は、議案3件、報告事項1件です。</p>
<p>教育長 教育部長</p>	<p><b>○提案理由の説明</b> では、教育部長から議案の提案理由をお願いします。 (議案書に基づき提案理由を説明)</p>
<p>教育長</p>	<p><b>○審議の方法について</b> 議案の審議に入る前に、委員の皆様に本日の審議方法について2点お諮りします。</p>

	<p>まず1点目は、第24号議案と第25号議案についてです。</p> <p>この2件は関連した内容であり、審議を円滑に進めるため、議案の順序を入れ替えた上で一括議題とし、第25号議案、第24号議案の順に続けて説明を受け、質問は一括して行い、採決は議案番号順にそれぞれ行いたいと思いますが、よろしいでしょうか。</p>
各委員	(異議なし)
教育長	<p>では、第24号議案及び第25号議案は、議案の順序を入れ替えた上で一括議題といたします。</p> <p>次に、2点目として、本日の報告事項についてお諮りします。</p> <p>全国及び埼玉県の学力・学習状況調査の結果について、学校教育課長からの説明を受け、それに対する質問を行った後、委員皆様による自由な意見交換の時間を設けたいと思いますが、よろしいでしょうか。</p>
各委員	(異議なし)
教育長	<p>では、そのようにさせていただきます。</p> <p>後ほど、よろしく願いいたします。</p>
	<p><b>○第24号議案・第25号議案</b></p>
教育長	<p>では、ただいま御承認いただきましたとおり、第24号議案「ふじみ野市社会教育委員会議規則を制定することについて」及び第25号議案「ふじみ野市社会教育委員の会議運営に関する規程を廃止することについて」、順序を入れ替えた上で一括議題といたします。</p>
社会教育課長	<p>本議案の説明を社会教育課長よりお願いします。</p> <p>社会教育課、佐藤です。よろしく願いいたします。</p> <p>最初に、今回の議案に係る社会教育委員と会議につきまして説明いたします。</p> <p>社会教育委員は、社会教育法第15条に基づき教育委員会の委嘱により設置される非常勤特別職の公務員です。</p> <p>同法17条の職務としまして、「第1項、社会教育に関する諸計画を立案すること」「第2項、定時又は臨時に会議を開き、教育委員会の諮問に応じ、これに対して、意見を述べること」「第3項前2項の職務を行うために必要な研究調査を行うこと」となっております。</p>

任期は2年間で、今任期は、平成28年5月1日から平成30年4月30日までとなっており、「学校教育及び社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者並びに学識経験者、一般公募市民」を含めた15名の委員で構成され、年4回の定例会議を開催しております。

この任期の間、学校施設を利用した文化財の展示室の設置について答申し、生涯学習推進計画アクションプランの外部評価、現在、社会教育施設調査・研究会として社会教育施設の現状と課題を職員に聞き取りし、施設視察を9月29日で終わっております。

つきましては、その委員の会議の活性化を図り、委員それぞれの専門性を生かして自ら動き自ら考え、ふじみ野市の社会教育のあり方について、広い視野から長期的な視点で様々な提言をいただくための廃止と制定となります。現行規程を廃止し、規則としてよりふさわしい例規の位置づけにするものです。

それでは、第24号議案、第25号議案は関連がありますので、あわせて説明させていただきます。

議案番号が前後しますが、最初に第25号議案「ふじみ野市社会教育委員の会議運営に関する規程」につきまして、規程を廃止し、第24号議案で新たに規則として制定するものです。

次に第24号議案「ふじみ野市社会教育委員会会議規則」を御覧ください。名称の規程から規則への変更も含めて、改正点が多く一部改正ではなく新たに制定させていただきました。

大きな改正箇所は、まず名称の「ふじみ野市社会教育委員の会議運営に関する規程」を「ふじみ野市社会教育委員会会議規則」に改めました。これは、契約法務課からの指摘事項でもあります。

次に第3条第1項の会議の招集者を教育長から議長へ改めました。他の審議会等の委員会と合わせるため改めさせていただきました。

そして、答申、提言などの準備のための専門委員会を設ける条文として、第5条の第1項を加えました。

昨年調査・研究会として活動を行っており、今年度から社会教育委員の会議運営検討会議を発足させ、既に月1回程度会議を開催し、活動しております。

	次に、第7条第1項「この規則に定めるもののほか、会議に関し必要な事項は、教育長が別に定める」を加えました。
教育長	以上でございます。御審議よろしく願います。
富田教育長職務代理者	ただいま説明のありました2件について、一括して質問をお受けします。委員の皆様から御質問がございましたらお願いします。
社会教育課長	今回の規程を廃止して規則を定めると契約・法務課から指摘があったということですが、この前に、国または県で変更があったため変更が生じたということでしょうか。
富田教育長職務代理者	特にそういうことではございません。
社会教育課長	ただ、社会教育法に定められた会議であります。条文も現状に見合った文言等に改正をするということで、よりふさわしい例規の位置づけにしたいので今回廃止し、規則を改正させていただきました。
富田教育長職務代理者	他の市町では規程で運営しているところもあるということでしょうか。
社会教育課長	ほとんどが規則という位置づけになっております。
教育長	ほかに御質問はございますか。
各委員	(質疑なし)
教育長	他に質問がないようですので、お諮りします。
富田教育長職務代理者	第24号議案について、原案のとおり決定してよろしいでしょうか。
各委員	(全員賛成)
教育長	賛成総員と認め、第24号議案は、原案のとおり決定いたします。
富田教育長職務代理者	次に第25号議案について、原案のとおり決定してよろしいでしょうか。
各委員	(全員賛成)
教育長	賛成総員と認め、第25号議案は、原案のとおり決定いたします。
	<b>○第26号議案</b>
教育長	続いて、第26号議案「ふじみ野市就学援助実施要綱の一部を改正することについて」を議題といたします。
学校教育課長	本議案の説明を学校教育課長よりお願いします。
	学校教育課、榎本でございます。よろしく申し上げます。
	第26号議案、ふじみ野市就学援助実施要綱の一部を改正することについて、まず、改正に至る経緯から御説明いたします。

	<p>平成29年3月に国が定めている要保護児童生徒援助費補助金の交付要綱が一部改正され、新入学用品費の入学前支給について実施が可能となる内容に改められました。</p> <p>準要保護者への就学援助につきましては、各市町村が独自の基準において実施しているところで、担当課としても昨年度より他市の先行事例等の情報を収集し、効果的でわかりやすい方法での実施に向け検討してまいりました。</p> <p>このたび新小学1年生及び新中学1年生の就学援助認定者を対象に入学前に新入学用品費の支給を実施するための補正予算を計上し、9月議会で議決をいただきましたので、今回の要綱改正を提案するものです。</p> <p>続いて、改正点のポイントを御説明いたします。資料を3枚おめくりいただき、新旧対照表を御覧ください。</p> <p>第3条には、支給対象者として、ふじみ野市に在住する小学校1年生及び中学校1年生の就学予定者を追加しました。</p> <p>第4条には、支給対象費用として、第3号に係る費用、つまり新入学用品費を追加しました。</p> <p>第6条は、新入学用品費の申請にかかる規定です。資料を1枚めくっていただくと、申請に必要な様式を新たに決めました。</p> <p>説明は以上です。御審議のほど、よろしくお願いいたします。</p> <p>この案件について、各委員の皆様から御質問がございましたらお願いします。</p>
教育長	
各委員	(質問なし)
教育長	<p>補足で説明をお願いいたします。</p> <p>新入学の小学生と中学生の入学前支給の額について説明をお願いいたします。</p>
学校教育課長	<p>新小学1年生は40,600円、新中学1年生は47,400円になります。</p>
教育長	<p>今年度は何月に支給していましたか。</p>
学校教育課長	<p>今年度は5月に支給しました。例年までは、6月に支給しておりましたが、1か月ほど早めました。額は変更しておりません。</p>
教育長	<p>今年度は、最短で何月になりますか。</p>

学校教育課長	3月です。
教育長	3月に支給するということですね。
	この場合の就学援助というのは、年収等が関連してくるわけですが、普通5月あるいは6月に支給していた場合の年収は、何年度の年収になりますか。
学校教育課長	前年度の年収に基づき、計算するのですが、入学前支給となりますと更にその1年前の収入に基づき算出して支給となります。
教育長	例えば、1年前には対象にならなかった者が、入学した後に対象になった場合は、時期は遅れるけれども、支給できるということですか。
学校教育課長	はい。もう一度、改めて申請していただくこととなりますが、支給できます。
教育長	逆の場合はどうですか。
学校教育課長	逆の場合は、返金をお願いすることはありません。あくまで、入学前に必要であったということですので、新年度になって対象児ではありませんということにはいたしません。
教育長	途中で引っ越した場合は、どうなりますか。
学校教育課長	入学前に引越しをした場合は返金を求めます。入学した後の転居につきましては、転出先の市町村に新入学用品費を支給しましたという通知文をその市町村に送ります。
教育長	委員の皆様から御質問はございますか。
各委員	(質疑なし)
教育長	質問がないようですので、お諮りします。
	第26号議案は原案のとおり決定してよろしいでしょうか。
各委員	(全員賛成)
教育長	賛成総員と認め、第26号議案は、原案のとおり決定いたします。
	<b>○報告事項</b>
教育長	次に、報告事項、全国学力・学習状況調査及び県学力・学習状況調査の結果について、学校教育課長より報告をお願いします。
学校教育課長	学力・学習状況調査の結果について報告させていただきます。 よろしくお願いたします。

報告の内容は、2つです。一つ目は、平成29年度全国学力・学習状況調査結果について、二つ目は、平成29年度埼玉県学力・学習状況調査結果についてです。

まず、平成29年度全国学力・学習状況調査結果について御説明いたします。

今回は、ふじみ野市と全国、県とを比較することには重点を置かず、各教科の問題ごとの正答率と無回答率に注目して分析をしております。

小学校について説明します。まず、はじめに、各項目でのふじみ野市、埼玉県、全国結果についてです。小学校の結果はこのような傾向となっております。Aは基礎的・基本的な問題、Bは発展・応用問題です。

小学校国語Aです。小学校国語Aでは、ことわざの使い方や漢字を読むことについては、正答率が高い傾向にありました。

一方、手紙の後付を正しく書く、漢字を正しく書くことに課題が見られました。

書くことの学習活動については、国語の授業だけではなく、各教科等と連携を図り、意図的、計画的に設定し、知識・理解の定着を図ることが重要です。

続いて国語Bです。文章の内容や登場人物の心情等を捉えることについては、正答率が高い傾向にありました。

一方、目的や意図に応じて、必要な内容を整理し、適切な言葉遣いで文章を書くことや、与えられた条件を満たしながら自分の考えを書くことに課題が見られました。

問題番号3二、条件を満たしながら自分の考えを書く問題の無回答率が特に高くなっています。小学校1年生から書く時間を確保することや、ただ感想を書かせる指導ではなく、新聞やリーフレットなど文章の種類や特徴を踏まえ、条件を基にした自分の考えを書く等の工夫が大切です。

続いて、算数Aです。乗法を用いた計算や、2つの数の最小公倍数の求め方、立方体の面と面の位置関係の理解における知識・理解は正答率が高い傾向にありました。

一方、加法と乗法の混じった小数の計算、商を分数で表す計算、そして、二次元表を用いて資料を整理することに課題が見られました。



内容を理解し、理解したことを基にして図や表を用いて整理する力を身につけさせる場面を充実させることが求められます。

算数Bでは、内容を理解し、示された条件を基に具体的な操作を行うことについては、正答率が高い傾向にありました。

一方、実際の生活の場面において、習得した知識を活用し、数学的に考え、表現することに課題が見られます。

問題番号3(2)は、平均を効率よく求める工夫について、「なぜそのように考えてよいのか」を答える問題です。正答率が低く、無回答率も高くなっています。授業においては、答えを導くための根拠を説明する場面や、自分の考えを数学的な表現を用いて発表すること、友達の考えを聞いて考えを広げる工夫が必要です。

続いて、中学校です。中学校はこのような結果となっております。

国語Aでは、文脈に即した漢字を正しく読むこと、語句の意味を理解することについては、正答率が高い傾向にありました。

一方、伝統的な言語文化と多様な語句への理解に課題があります。

問題番号9五、学級会の話し合いをした際、結論が出ず、あとでもう一度話し合うことにする場合、それを何と云えばよいかを問う問題です。

正答例は、「再検討」または「保留」ですが、聞いたことがあり、意味は知っていても、適切に活用することができない実態が見えてきます

小学校と同様に、国語の授業だけではなく、全ての教科において、連携を図る横断的な学習活動が必要となります。

国語Bでは、文章を適切に読み取ることは正答率が高い傾向にありました。

一方、自分の思ったことや考えたことを、相手に分かりやすく伝えるように工夫して表現することについて、全国的な傾向と同じように課題がありました。

正答率と無回答率を比較すると、本市の場合、学力の格差があることもわかります。中学校では、その傾向が強いこともわかります。国語Bの課題に対して、自分の考えと書かれているものの見方や考え方を対比させ、考え方や表現の仕方を広げる活動や、自分の伝えたいことが聞き手に対して十分に伝わる表現になっているのか、話し手と聞き手の両方の立場を考

えて表現する等の工夫が必要です。

数学Aでは、分数の乗法の計算、実生活の場面での正の数、負の数の利用、平行移動、回転体については正答率が高い傾向にありました。

一方、扇形の弧の長さを求めること、「関数」、反比例における「比例定数」、「範囲」の意味について課題が見られました。

問題番号9は、関数の定義に関する問題ですが、伴って変わる2量について、「一方を決めれば、もう一方が決まる」「一方を変えれば、それに伴ってもう一方が変わる」という理解が不十分であることがわかります。このことは、小学校の比例が学習から意識して取り組まねばならないことです。数学用語の意味を正しく理解する指導を行うとともに、その用語を用いた具体的な事象を考察する場面を設定することや、数学的活動を通して式の意味を理解する指導等の充実を図ることが必要です。

数学Bでは、問題を読み取り、具体的な場面について解決をする問題については正答率が高い傾向にあります。

一方、事象を数学的に解釈、分析し、数学的な表現を用いて説明することや、式が成り立つ理由を説明することに課題があります。

問題番号3(2)は、ダム貯水量がだんだん減っていくグラフを一次関数とみて、取水制限になる日を求める方法を説明する問題です。正答を導くアプローチはいくつか考えられますが、 $y = -ax$  という式がわからなくても、与えられたグラフに直線を引くことで予想できる問題でした。

無回答率が高いのは、日常的な事象を理想化・単純化して、その特徴を的確に捉えることができないことがあげられます。また、正答率の低さは、答えを求められても説明ができないことなどが原因として挙げられます。

数学では答えを求められること以上に、その根拠を正しく説明する力を養うことが大切です。国語科を中心に全ての教科で相手に分かりやすい表現で伝えられる力を育むとともに、数学科の授業では問題解決の方法を数学的な表現を用いて分かりやすい表現で説明する活動を更に充実することが求められます。

小学校の児童質問紙調査の結果です。各教科の「勉強は好きですか」という質問に対して、国語、算数においては、「好き」、「どちらかというところ好き」と答えた児童の割合は、全国的な傾向と同様に6割程度と低い結果と

なっております。

中学校でも、小学校と同様の結果となっております。児童生徒の興味関心を高める学習活動の工夫が課題です。

授業において、「ねらいが提示されていたか」、「まとめの時間を行っていたか」という質問に対して、「あてはまる」、「どちらかといえばあてはまる」と答えた児童生徒の割合です。1時間の授業において、ねらいを提示することとまとめの時間を確保することは、学習内容を定着するために大変重要であると言われております。小・中学校ともに、ねらいを提示することについては、高い傾向にあります。1時間の授業をまとめる時間の確保については課題があると考えられます。各学校では、1時間の授業で「何ができるようになったのか」児童生徒が実感できるよう新学習指導要領を見据えた授業改善に取り組む必要があります。

結果の公表についてです。全国学力・学習状況調査には、学校と家庭が連携し、子どもたちの学力向上を図ることを目的として、学校ごとに調査結果の公表を行います。公表する内容につきましては、「各教科の全体的な成果と課題（表題）」、「領域別正答率」、「正答数ごとの人数分布」、「文章による具体的な分析」の4点です。こちらにつきましては、昨年度と変更ありません。

また、必要に応じて、学校の実態に応じた内容を取り入れることとなっております。公表の仕方につきましては、学校だよりや特集号、HPなどです。公表の時期につきましては、二学期中となっております。

続いて、平成29年度埼玉県学力・学習状況調査結果について御説明いたします。

本調査の目的は、「各学校の指導と子供たちの学力の関係を、客観的なデータに基づいて分析する」、「より効果的な指導方法を考え、児童生徒の一人一人の学力をしっかりと伸ばす」の2つです。

調査の特徴は、一人一人の学力がしっかりと身につけているかというこれまでの視点に加えて、毎年の調査結果を見比べることにより、学習の積み重ねが「学力の伸び」として見えることで、児童生徒が自分の伸びや成長を実感し、学ぶ意欲や自信を育むことができることです。

本調査では、学力を「学力のレベル」として提示し、すべての学年の間

題に難易度を設定し、学力のレベルを測定しています。学力のレベルは全部で12段階あり、測定は各学年で7レベルの間で行われます。また、1つのレベルはそれぞれ3層に分かれています。

児童生徒の個人結果票では、個々の児童生徒の学力のレベルをバーの位置でわかりやすく示しています。前学年と今回のバーの位置を比べると学力レベルの差がわかります。この学年間の学力レベルの差を「学力の伸び」と考えます。

「学力の伸び」のイメージです。今年度、小学5年生のある児童が、小学4年で正答した問題と同じ難易度の問題を小学5年でも正答したとします。各学年の段階で同じ難易度の問題を正答できた場合、これを「成長」と呼びます。さらに、昨年度と比較して、より高い難易度の問題を正答できたとき、それを「学力の伸び」とし、学力のレベルが上がることとなります。

では、本市における「学力の伸び」の全体的な傾向について説明いたします。6年生の例です。平成27年度から29年度の3年間における国語と算数の「学力の伸び」の平均です。国語、算数ともに着実な「学力の伸び」が見られます。

次に中学校の結果です。中学3年の平成27年度から29年度の3年間における国語と数学の「学力の伸び」についてです。中1から中2の伸びは共に低くなっており、伸び悩む生徒が出やすいという傾向が見られました。

英語の結果です。中学2年からの実施のため、平成28年度から29年度の2年間における「学力の伸び」です。着実な「学力の伸び」が見られました。

結果の分析方法について説明いたします。今年度の結果について、各学校においても、昨年度の学級ごとに比較することができます。結果の中の「学力分析データ（学力値・伸び）児童生徒別」というExcelデータに昨年度の学年・組・出席番号の欄があります。これをソートして並び替えることで昨年度の学級ごとの分析をすることができます。

なぜ昨年度のデータが大事なのかというと、実施時期は今年の4月なので、もし6年生が受けたとして、6年生の結果が出るのではなく、5年生

教育長

<p>学校教育課長</p>	<p>のときの結果が6年生の4月に出ているので、どの学級の子供たちが伸びたかを知るためには、昨年の組・出席番号のデータが重要になってきます。</p> <p>6年生の4月に実施したテストで分かる伸びは、小学校4年生から5年生の間の学力の伸びが分かるということになります。</p> <p>教育長からお話しいただいたように、6年生の4月にやったテストで分かるのは、小学校4年生から5年生にかけての1年間でどれだけ伸びたかということが分かるということになります。</p> <p>市内小学校における「学力の伸び」が大きい学級についてです。</p> <p>まず、表の「伸びの平均」の見方を説明いたします。昨年度のA小学校5年1組の1年間における伸びの平均値が1.20でした。伸びの平均値は、およそ0.3で「学力のレベル」が1段階上がる計算となります。この場合、この学級は6-Cから7-Bに上がっているため、4段階上がったこととなります。</p>
<p>教育長</p>	<p>国語が伸びている上位の学級はこのようになっています。上位に入る学校は、学校全体で国語の研究に取り組んでいるところが多くなっています。</p> <p>この1.20とはどのようなものかといいますと、先ほど説明がありましたが、全部で7段階あって、その中に更に3項目ずつあるので、学力のレベルは21段階で示せるということです。</p>
<p>学校教育課長</p>	<p>続きまして、小学校の算数です。</p> <p>算数の伸びが上位の学級です。国語よりは若干伸び率が低くなっていますが、市内では、このような形で平均としても伸ばしている学級が多く存在します。</p> <p>これについては、子供達も努力していますが、やはりそれを大きく伸ばしている先生の存在があります。これは、他の学年でも同様の傾向が見られました。</p> <p>続いて中学校です。</p> <p>中学校における「学力の伸び」が大きい学級です。中学校の国語においても、小学校と同様に学力を伸ばしている学級が多数ありました。</p> <p>数学についても、多くの学校で学力が伸びている学級がありました。中学校は、国語と数学で伸びの平均は同様の傾向を示しています。</p> <p>英語も同様に、多くの学校で学力の伸びが見られました。このように中</p>

学校も各教科で学力が伸びている学級が多数あり、このことから各教科で学力を伸ばしている先生方が多数いることがわかりました。

小学6年の取組の成果は、中学1年の結果に表れます。中学校においては、小中連携の視点から、教育委員会としては小学校に今年度の結果をフィードバックし、授業改善に役立てていきます。

最後に、調査結果の活用についてです。1点目です。現在、各学校では調査結果から児童生徒がどう伸びたか、どう変容したのかを分析を行っています。各教科の領域ごとの「学力の伸び」がどうだったか等の細かな分析も行っていく予定です。

2点目、前年度に各学校において実施した取組や指導の成果を、結果の分析をもとに具体的に把握していきます。

3点目です。大きな学力の伸びが見られた学級については、その先生の指導方法や取組を校内で共有し、授業改善につなげていきます。

学校教育課といたしましても、市内で大きな学力の伸びが見られた学級の取組等について指導主事が聞き取りを行い、校長会でそれを共有していく予定です。

また、学力向上には、学級経営の充実も重要なポイントの一つです。児童生徒の「自制心」「自己効力感」「勤勉性」「やりぬく力」など、これら非認知能力を高めることができる先生の学級は学力がよく伸びるといふ県の検証結果もあります。今後は、学校と協力しながら質問紙調査の項目と学力の関連についても検証していく予定です。

埼玉県学力・学習状況調査の説明については以上です。報告を終了いたします。

教育長

38ページについてももう少し詳しく説明しますと、例えば、ある学級の伸びが1上がったとしても、みんなが平均して1上がっているとは限らない。全国学力は小学6年生と中学3年生で毎年実施しますが、県の学力検査は追跡して学力の伸びがどうかを判断するので、比べ方が異なります。

保護者の方に説明するのもっと分かりやすい手立てを考えていかないとこの活用は難しいです。

難しい内容でございますが、御質問はございますか。

富田教育長職務代理者

23ページの学力の伸びが大きい学級ということで、小学校6年生の国

<p>学校教育課長 富田教育長職務代理者</p>	<p>語と算数が表示されていますが、市内の対象の学級がそれぞれ割り当てられて実際の数値ということなのではないでしょうか。</p> <p>はい。市内の小学校の実際の数値です。</p> <p>国語と算数でB小学校の5年1組の先生は、非常に優秀な指導を行ったという理解をして良いということではないでしょうか。</p>
<p>学校教育課長 教育長</p>	<p>はい。その通りでございます。</p> <p>逆もあるということですね。やはり、そこも注目しながら改善すべきところは何かということもみていかなければならないと思います。</p> <p>ほかにはいかがでしょうか。</p>
<p>山城委員</p>	<p>全国学力調査で、正答率が高いとか、無回答など、詳しく分析していますが、毎年問題点や得意なところなどは、同じものが分析としてあがっているのでしょうか。それとも、課題に対して指導されているので、克服されて、別の問題があがってくるのでしょうか。</p>
<p>学校教育課長 教育長</p>	<p>傾向は、ほぼ毎年同様です。</p> <p>同時に全国傾向も同じようなことになっています。</p> <p>例えば、文章問題が全国的にも正答率が悪く、無回答率が高いです。</p> <p>ほかにはいかがでしょうか。</p>
<p>塩野委員</p>	<p>今のことですが、基本的なものから応用、発展した問題が分かってくれば、無回答率が下がってくるという考えではないでしょうか。</p>
<p>学校教育課長</p>	<p>テストですので、応用問題の構造が複雑になってきます。問題文が長かったり、ストーリーのようになっていて、非常に読むものが多いということです。これが授業ですと先生とのやりとりや補助発問で、授業であれば解けるという場合もあります。調査用紙の場合は、1つの問題で1ページ使うこともありますので、そこで耐え切れないということもあります。</p> <p>先ほどの報告の中で、国語なら国語、算数なら算数ではなく、全ての教科で横断的に言葉というものに注目して、表現したり、書いたりということに慣れていくということはひとつ必要な要素かなと思いますが、これを通常の授業の中でやるのは、なかなか難しく、別の課題が生まれてくると思います。</p>
<p>塩野委員</p>	<p>正答率の差というのは、そういう授業をやっている学校は、高いということではないでしょうか。授業の内容が、ふじみ野市と全国の正答率の高いところ</p>

<p>学校教育課長</p>	<p>と違うということでしょうか。</p> <p>授業のやり方が、大きく変わるということはないです。ふじみ野市の授業が、全国の高いところに比べて、教え込みが激しいとかドリルしかやらないということはないです。</p> <p>他の県を詳しく調べたわけではないのですが、私ないし、指導主事が学校指導訪問等で授業の先生方の様子を見たときに明らかに古いスタイルの授業をたくさんやっているという状況ではないです。</p> <p>それよりは、今やっている授業の精度をもう少し高めていって発問を精査したり、子供たちに考える時間をしっかり与えたり、同じやり方であっても、子供の考えに寄り添った授業を展開するのが大切になってくるかと思えます。</p>
<p>教育長</p> <p>伊藤委員</p>	<p>ほかにいかがでしょうか。</p> <p>ふじみ野市の結果については、誰に対して、どのような形でフィードバックされるのでしょうか。</p>
<p>学校教育課長</p>	<p>県学調については、個表が発行されます。一人ひとりにその結果というものがペーパーで戻ってきます。そのペーパーの戻し方も、子供に直に返すわけではなく、きちんと説明した上で返す。学校によっては夏休みの短縮期間の中で、教育相談週間を設けていますので、面談で保護者にも説明し、各学校で工夫しながらフィードバックをしています。</p> <p>全国もほぼ同じです。</p>
<p>教育長</p> <p>学校教育課長</p>	<p>学校ごとには、ホームページや学校便りで、市全体のものはどうですか。市全体のものは、学校教育課のホームページで分析したものがあります。</p> <p>1つ難しいのは、全国学調では、全員共通の問題に取り組んでいるので、できなかった問題を実際に授業で取り上げたりすることが可能ですが、県学調の場合には、同じクラスの中でも問題が違うので、どの子がどの問題をやったかどうかは、市教委レベルでも公表はされていません。</p>
<p>教育長</p>	<p>ちょっと待ってください。その説明は、聞き方を間違える可能性があります。</p> <p>同じ問題に取り組んでいるのですよね。</p>
<p>学校教育課長</p>	<p>はい。パターンがあるということです。難易度の設定は同じように設定されているということです。そのレベルについては、県のホームページに</p>



<p>伊藤委員</p>	<p>コバトン問題集というのが掲載されていて、全ての問題にレベルが掲載されています。それを参考に学習することは可能です。</p> <p>先程の23ページのB小学校5年1組ですが、この先生は、国語も算数も良い指導を行っているということで、県の分析で、優秀な先生がこういう感じというのはありましたが、ふじみ野市の場合はそのような分析はしているのでしょうか。</p>
<p>学校教育課長</p>	<p>それを今、進めているところです。</p> <p>これらの高い伸びを見せた学級の担任については、これからリサーチを行い、授業のやり方ですとか、学級経営そのものをどのような工夫をしたか、どのように効果を実感できたかを校長先生、学級担任本人にリサーチし分析していきたいと思っています。</p>
<p>伊藤委員</p>	<p>この結果は先生本人へ知らせているのですか。</p>
<p>学校教育課長</p>	<p>それは、各学校でやっていることですので、校長先生の判断で、知らせている場合もありますし、知らせていない場合もあると思います。校長は全てわかっています。</p>
<p>教育長</p>	<p>全国学調が小学校の結果があまり良くなかったと思いますが、中学は非常に良い結果が出ていました。その原因分析は学校教育課としてはどのようにしているか、委員の皆さんに説明をしてください。</p>
<p>学校教育課長</p>	<p>本市は、小中連携を進めています。中学校区の中で、小学校と中学校の授業の見合いですとか、指導についての情報交換を相当綿密におこなっています。そして、生徒指導の面でもそうです。中学校の先生方が「小学校で、こういうふうに丁寧に授業をしているんだ」という声があがっています。中学校の授業を見ても、小学校で大事にしていた授業のエッセンスを中学校でも展開する授業が増えてきていると分析しています。</p>
<p>教育長</p>	<p>今の説明ですと、中学校が小学校と連携することによってプラスの効果が出たという受け止め方になってくるが、今の中学校3年生が小学校の段階ではどうだったのだろうか。</p>
<p>学校教育課長</p>	<p>3年前の全国学調の結果は、今の中学3年生はどうでしたか。</p> <p>具体的な数値は持ち合わせていませんが、それほど低いという認識はしていません。</p>
<p>教育長</p>	<p>全国学調の場合は毎年対象が変わりますから、数年前は逆のケースもあ</p>

	<p>りました。小学校が非常に全国よりも高いというのを示した時もありました。ふじみ野市くらいの母数が統計をとっていくと毎年の変化が大きいので、統計的に推測、説明するのは難しいと思います。かなり変動が激しいです。</p> <p>その辺も含めて注目してもらいたいのは、学力調査推計という点では、県学調のほうが追跡をしていくので見やすいとなります。全国学調だけで市の特色を調べるには、母数がこの人数くらいだと難しいと思います。小学校6年生と中学校3年生が1,000人くらいなので、ばらつきが出やすいです。</p>
<p>塩野委員</p>	<p>ほかにいかがでしょうか。</p> <p>地域性といいますか、塾に行っている子が多い地域ですとか、先生方の指導もあるかと思いますが、そういったものも影響するのでしょうか。</p>
<p>教育長</p>	<p>課長からはお答えにくいと思いますので、私から説明させていただきます。伸びという点では地域性は関係ないです。</p> <p>ある学校で伸びが3の学校があります。1でも大きいのに、3という学校ですが、全国学調の平均の成績でいうと非常に低いです。低いけれども伸びは大きいという学校があります。</p> <p>伸びということについては地域性ではなくて、学級の指導、先生の学級経営などいろいろな面が関わってくると思います。地域性という点では平均、総合点ということでは、地域性が関係してくるかと思います。</p> <p>このように考えると、伸びと平均の違いが逆に見えるのかなと思います。</p>
<p>富田教育長職務代理者</p>	<p>ほかにいかがでしょうか。御意見でも結構でございます。</p> <p>埼玉県の市町村教育委員の全体研修に参加して、他の市町の委員の方の御意見などを聞いてきました。</p> <p>ともすると、全国学調では、都道府県別、市町村別、学校別の結果が比較されたり、学校選択制の要素になったりする。</p> <p>とにかく、そのような注目のされ方をしますが、埼玉県は独自の取り組みとして、県学調があるので、生徒一人ひとりの伸びというものを把握することによって、子供の意欲にもつながり、先生の意欲にもつながるので非常に良い取り組みだという意見がありました。</p>

<p>教育長 伊藤委員</p>	<p>ふじみ野市教育委員会としては、地に足の着いた調査研究を今後も続けていっていただきたいと思います。意見でございます。</p> <p>ほかにかがでしょうか。</p>
<p>教育長</p>	<p>小中学校の義務教育の間しか行われないうのですよね。子供が高校、大学へ進学していった時にどのようになっていったかという情報収集は難しいのでしょうか。</p>
<p>伊藤委員</p>	<p>その辺が難しいと思います。高等学校と義務教育の関係で、これを行っているということはありませんし、高等学校も全国学テはやっていないのです。最終的には、大学入試センター試験などで測ってくるかと思います。</p> <p>全国学テで上位の学校と大学進学率があまり一致していないようです。大学進学率が学力の水準ではありませんが、一概にそれだけでは測りきれないところがあります。</p> <p>こういった結果は、しっかり受け止めて学校の授業改善などにつなげていかないといけないと思います。</p>
<p>教育長</p>	<p>そういうことはできないと思いますが、非常に良い成績だった子供がその後どういう仕事に就いたのかというのが見えてくると、小学校の時の教育がどうだったのかという分析ができればと思います。</p>
<p>伊藤委員</p>	<p>慶應義塾大学准教授の中室牧子さんが、エビデンスに基づいた教育政策ということで、日本ではそれができない。海外では実験的な集団母数をしっかりとらえて、その追跡というのはできるけれども、日本の場合にはそれができないというのは本に書かれています。一番難しいところです。</p>
<p>教育長</p>	<p>でも、一番知りたいところですね。</p> <p>自分の子供を統計的な実験材料にされるのは、日本人の意識としては難しいところです。そこを改善していかないときちんとしたエビデンスにはならないと言われてます。一教育委員会では、なかなかできることではないなと思います。</p> <p>ほかにかがでしょうか。</p> <p>ぜひこれをきっかけに全国学テと全県調査の組み合わせを使いながら、授業改善をしていきたいと思いますので、今後とも委員の皆様いろいろな御意見をいただきながら、改善を図っていききたいと思います。</p> <p>この件についての御意見等はよろしいでしょうか。</p>

富田教育長職務代理者	<p>優秀な指導結果を残されたような先生の授業を教育委員が見るといふことは可能でしょうか。</p>
教育長	<p>ぜひやりたいと思います。</p> <p>先ほどの3伸ばした学校はすごいです。</p> <p>21項目の中で全員の子供が3伸ばしているのは、ほぼ半分伸ばしているということです。ただし、元のレベルは低いです。</p> <p>やはり伸ばしていくというのが重要ですので、ぜひそういった学校を注目しながら全部に広がるような取り組みにしていきたいなと思います。</p> <p>貴重な御意見をいただきましてありがとうございます。</p> <p>それでは、この案件については、報告の内容のとおり了承してよろしいでしょうか。</p>
各委員	(異議なし)
教育長	<p>では、報告の内容のとおり了承いたします。</p> <p>以上で、議案及び報告事項の審議を終了いたします。</p>
教育長	<p><b>○各課からの報告</b></p> <p>次に、各課から別件で報告しておくべき事項がありましたらお願いします。</p> <p>(学校給食課長、大井図書館長、大井中央公民館長、上福岡歴史民族資料館長：報告)</p>
教育長	<p>ありがとうございました。</p>
教育長	<p><b>○次回の日程等</b></p> <p>続いて、次回の定例教育委員会会議についてです。</p> <p>今回は、平成29年11月15日(水)午後6時30分から、会場は市役所第2庁舎3階、B301会議室を予定しております。</p> <p>なお、傍聴人の数は5名までとさせていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。</p>
各委員	(了承)
教育長	<p>それでは、次回教育委員会会議の傍聴人は、先着順に5名を限度とします。</p>

<p>教育長</p> <p>(19時54分)</p>	<p>○閉会の宣告</p> <p>以上で、平成29年第10回定例教育委員会会議を閉会いたします。</p> <p>本日はお疲れ様でした。</p>
----------------------------	---